

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	永留 和博君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	村井 英哉君
市民生活部長	二宮 照幸君
福祉保険部長	乙成 一也君
健康づくり推進部長	松井 恵夫君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	佐々木雅仁君
水道局長	立花 大功君
教育部長	八島 誠治君
中対馬振興部長	波田 安德君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	藤原 亘宏君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	阿比留 裕君
監査委員事務局長	内山 歩君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。総務部長、木寺裕也君から欠席の申出がっております。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は4人を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） おはようございます。会派自公・協働、9番議員の脇本啓喜です。

さて、令和4年度一般会計予算編成時期真ただ中ですが、1つ目は予算編成過程への市民参加・参画をいかに進めていくか。もう一つは、議会で可決された事業の進捗状況や成果達成状況の検証を含むPDCAサイクルの確立について、今回も市民協働を円滑に推進するため、2項目質問いたしますが、おのおの質問の前には結論から先に伝える方式で、質問の流れを、まずお示しいたします。

パネルの1を御覧ください。提案事項、対馬市を3地区に分割し、予算の一部を市民の自由裁量に任せてはどうか。提案理由は、対馬全体を対象とするよりも、3地区に分割したほうが市民ニーズを把握しやすい。2番、3地区に分割したほうが市民参加のハードルが低くなる。

パネルの2を御覧ください。財政課一括査定方式から枠配分予算の導入へ変更してはどうか。予算編成過程への市民参加のモデルは以下の3つのタイプがあると言われています。タイプAが説明責任の向上を目指して予算編成過程を公開すること、あるいは分かりやすい予算書を作成すること。タイプBは、市役所とは別に、市民が自治体予算全体の見直しと予算作成を行うこと。タイプCは市予算のうちの一部を分割した全地区に交付し、市民が地区予算を編成すること。

ここから本題に入ります。1番、予算編成過程への市民参加・参画について。通告をお伝えしたように、公益財団法人政治経済研究所、松田真由美研究員のレポートを参考にして、この項目は質問いたします。日本の地方自治体では、予算提案権は首長の専権事項であり、かつ執行権も首長にあるとはいえ、その間にある議決権は議会が握っています。しかし、多くの自治体では、予算案が議会によって修正されることはほとんどありませんでした。それを受けて、近年、各種の自治体計画策定レベルでの市民の参加が進んでいます。それに加えて、市民参加の流れは地方自治体の予算編成過程へも及び始めています。対馬市においても、総合計画をはじめ、各種計画策定に公募委員を入れたり、パブリックコメントを募集するなど、市民の意見を反映させることに努めていることは一定の評価をしています。

さて、日本における自治体予算編成過程の市民参加の動きを見ると、主要なものとして3つのタイプがあるようです。パネル3を御覧ください。結論から申し上げます。予算編成過程への市民参加・参画を図るため、タイプCを対馬市に見合った形式で導入してはどうでしょうか。

ところで、現在、対馬市には、わがまち元気創出支援事業がありますが、その違いも含めて、ここで説明いたします。タイプAは既存の制度の説明責任の向上を目指して予算編成過程を公開する、あるいは分かりやすい予算を作成する。例として、鳥取県ですが、鳥取県では予算編成過程をインターネットで公開し、全ての事業の要求書と財政課長、総務部長、知事、それぞれの査定状況が公開されています。これは市民、県民にとっては、どの時点で予算額が削られたかなど、予算編成過程が分かりやすくなりますが、予算内容に直接変化が生じる可能性は低いでしょう。

対馬市も、まずは定例市議会前の議会運営委員会終了後に、議案を市のホームページに公開し、予算については市政へ市民の関心を高めた上で、予算編成過程への透明性にも取り組んではいかがでしょうか。市長の所見を伺います。

タイプBは、市役所とは別に公募による市民が自治体予算全体の見直しと予算案作成を行います。埼玉県志木市では、一般市民で構成される市民委員会による予算編成を開始しました。これは、市民の意見が予算編成全般に直接反映できるメリットはありますが、代表制のない市民が予算案の対案を作成し、市長に提出できるという仕組みは問題があったかと考えられ、導入した市長が交代した、その時点で、この予算編成方式は終息されました。したがってタイプBは参考程度でよいかと思います。

タイプCは、市予算のうち一部を分割した全地区に交付し、市民が地区予算を編成する。例としては、名張市では各地区の地域づくり委員会による地域づくり事業に一括交付金を与え、一部の予算編成を市民に任せていました。当市の、わがまち元気創出支援事業とは異なり、資金の使途が限定されず補助率もありません。また、わがまち元気創出支援事業は、特定のグループが対象であり、地域住民全員を対象とはしていません。

制度導入の背後には、行政によるサービスが拡大する中で、受益は歓迎だが負担はしたくないという市民の意識が高まる一方、厳しい財政状況にあることを住民に理解してもらうことが必要であるという行政側の思惑がうかがえます。しかし、市全体の予算編成における位置づけは、あくまでも少額です。

また、事業の内容の特徴は、その多くが住民交流会イベントや環境美化、防犯など、これまでの町内会活動の延長線上にありました。この活動に以前から関わっていた人以外に、大幅な参加者を増やすことは期待できないような状況でした。

一方、一部の地区では、子育て支援と高齢者福祉に関わるサービスも開始しています。今後は、このような生活上のニーズの高い分野でサービスを提供することによって、住民の関心が高まる可能性があるでしょう。つまり、真の意味で地域の自己決定権を高めるには、財源移譲に加えて、権限の委譲が必要です。また、この制度は予算編成への市民の参加というよりは、地域のことは地域で決めるという地域内分権の例と言えます。ただ、住民ニーズの吸い上げと住民に対する説明責任と透明性の確保という問題は、地区レベルになったとしても、依然として残ります。

パネル4を御覧ください。市全体の優先順位、つまり全体を見渡す視野も非常に重要ですが、各地域の優先課題もあるはずで、全体予算の1から2%だけでもいいと思います。その予算に充ててみてはどうでしょうか。いわば鳥の目も必要ですが、虫の目、現場をつぶさに見る、そういう目も必要だと思います。

私は自治体の職務は大きく分けると1つはお金を稼ぐこと、もう一つは住民サービスの充実、

この2つであると思っています。前者はスケールメリットを享受するために、大きな単位が優位である一方で、後者は対象単位、人口や面積が少ないほど目が行き届きやすいというメリットがあります。例えば対馬市を3地区に分割し、予算の一部を交付することにより市民ニーズを吸い上げやすくして、市民が自分たちの住む身近な地区の予算について考える機会を設け、その参加するハードルを低くするメリットが期待できると思われまます。あえて誤解を恐れずに言わせていただくと、市民にとって事業の成功よりも事業の過程に参加をしたということに納得いただくことが重要なこともあると思います。市長の所見を求めます。

枠配分予算の導入について。予算編成の手法は大きく分けて2つあります。従来型の1事業ずつ財政課が査定する1件査定と、あらかじめ推計した翌年度の財源を一定のルールで各部局に予算編成前に配分し、部局がその範囲内で自主的・自律的に部局単位の予算案を作成する枠配分予算です。私は対馬市においては、福岡市等で採用されている枠配分予算を段階的に採用していくことを提案します。いきなり全てを枠配分予算へ移行することは、各部署で予算の査定ができる人材確保の観点等から困難であろうと思われまます。とりあえず、対馬市内の3分割地区を本庁の各部局に見立てて、一定の交付金を与えて経験を積んで、将来的に枠配分予算制度の導入を始めようでしょうか。市長の所見を求めます。

2番目、パネル5を御覧ください。予算執行状況及び成果達成状況の中間検証等、PDCAサイクルの確立について。提案事項は、庁舎内はもちろん、第三者によるPDCAサイクルの確立をしてはどうか。提案理由、財政逼迫の折、お金ではなく、対話で納得していただくことが大事だということ。それには行政職員の対話力の強化が必須であるということ。そして、目的を達成するためにはPDCAを循環、継続させるということ。

パネル6を御覧ください。PDCAと先ほどから何回も言っていますが、なかなか理解が難しいところがありますので、簡単に説明しておきます。PDCAとは継続的な業務を行うための改善策です。プラン・計画のP、これが済んだらDO、実行して、それからチェックをする、評価を加えて改善するアクションという、これがPDCAサイクルです。自己検証の在り方の再検討について、それから第三者機関による検証の導入について、市長の所見を求めます。

あとは答弁によっては自席から再質問させていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。脇本議員の質問にお答えいたします。

本市の予算編成の流れについて簡単に説明いたしますと、各部局からの予算要求について、財政課によるヒアリングを行い、財政課査定の後、副市長査定を経て、市長である私が最終的に決定したものが予算案となります。

各種事業に係る予算要求は、経常的なもの、義務的なもの以外につきましては、対馬市総合計

画などに掲げる主要施策に基づくもののほか、各行政区等からの陳情、要望に基づいたものでございます。市民の要望を予算案に、また、その透明性という部分では、対馬市総合計画につきましても、その策定の折に市民ヒアリング、パブリックコメント、民間の方を中心とした審議会を行い、その意見を反映した計画となっておりますし、同計画と連動した対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略につきましても同様に策定しております。

また、各行政区等からの要望につきましても、全てを即予算に反映することが理想ではありますが、財源的にも限りがございますので、緊急性、費用対効果等を総合的に判断し、優先順位をつけての予算計上ということになり、予算要求まで至らないケースなど、即予算化できないものもあり、そういった場合は、その説明を添えて各区長等に回答をしているところであります。

次に、市内を3地区に分けて、地域のニーズに応じた事業の執行ができるような予算枠を配分できないかという質問についてでございますが、現在の本市の予算編成は、各担当部局が見積もった事業について、財政担当が1事業ごとに査定を行う、いわゆる一件査定方式となっております。枠配分方式を導入すれば、現場、各振興部等でございますけれども、振興部ごとの裁量が生かされ、より地域性を反映した予算になることが期待されますが、当然ながら、財政的見地からのチェックも必要であるため、現場における専門性の確保が必要になることに加え、各振興部の業務量をさらに増加させることも予想されるところであります。

現に、本市におきましても、平成18年度、19年度に一般財源枠を示しての当初予算編成を実施しているところではありますけれども、結局、財政課による1件ごとの要求内容確認、査定となった経緯もございます。限られた財源、限られた時間での作業ということを考えますと、将来に向けて検討すべき課題ではあります。予算の枠配分方式の導入は現状では難しいものと考えております。ただ、本市の場合、上対馬振興部、中対馬振興部がございますので、地域のニーズも把握しやすい状況でございますし、予算要求自体は各部局の裁量によるものでございますので、先ほども申しましたとおり、全てをすぐにとはまいりませんが、そういった要求も可能な限り予算に計上することとしております。

次に、予算の執行状況及び成果達成状況についての中間検証等、PDCAサイクル確立についてでございますけれども、先ほども挙げました対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく主要な施策につきましても、将来目標と年度ごとの目標を設定しており、年2回、民間の方を中心としたメンバーにより検証を行い、必要に応じ、目標項目の修正、追加等を行うとともに、その結果について議員の皆様にも御意見を頂くこととなっており、先日の全員協議会においても検証をいただきました。

また、今年度は総合計画に掲げる施策や総合戦略に係る子育て環境について、市民の満足度調査を実施いたします。予算化した全ての事業で、必ずしも成果が出るとは限りませんので、定期

的な見直しを行い、なるべく早い段階での事業改善、方向転換といった判断ができるよう、今後とも努めてまいります。現状、全ての事業において、外部の検証を実施しているわけではございませんので、より多くの事業について市民の意見が反映できるような仕組みづくりを目指してまいります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 提案につきましては、今すぐには難しいが、できるところからやっっていこう、検討してみるという答弁であったかと思います。前向きな答弁でありがたい答弁だなというふうに思います。行政側だけが努力してもできることではありませんし、議会も、それから市民も、自分たちのことは自分たちで考えてみようという機運を上げていきたい、そういうふうに思っております。

こちらのほうは配っておりませんで、ちょっと小さいですけども、これから市民協働を進めていく上で、どういうことが期待されているかということについて、少し話させていただきます。こちらに書いているように、江戸時代、その前からずっと、政治といえばトップダウンの政治だということが続いてきました。それから、その後、ボトムアップとあって、市民から吸い上げてやっっていくという動きに変わってきました。そして、今、並行して行われているのが、行政と市民が上とか下とかではなくて、対等な関係、フラットな関係で政治をやっっていこうという、そういう時代に来ていると思っております。議会も活用して、行政と市民がフラットな関係で町づくりを進めていく。これが対馬市市民基本条例にも書いてあることだと、そういうふうに思っていますので、これを進めていきたいと思っておりますが、私の認識について、市長、こういう形で間違っていないでしょうか。お聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 基本的には間違いはないと私も思いますけれども、議員が冒頭申されたように、対馬市の予算編成等につきましては、私の市長提案に基づきまして、市民の皆様から負託された議会議員の皆様によって、審査、検証をされ、予算編成をするといった現在のシステムが私は今現在では望ましいのではないのかなと思っております。今、議員がおっしゃられたように、トップダウンとかボトムアップとか、いろいろな方策はあろうかと思っておりますけれども、これを全体ではなくて、それぞれ個々の場合で、そのようなこともあり得るものだというふうに私自身は思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 私の言葉足らずのところも補っていただいてありがとうございます。基本というか、進めていきたいところは市民協働でフラットな関係であります、市長がお

っしゃられるように、トップダウンでやらなければいけないところはトップダウンで、そしてもっと市民から聞いて進めていくところは、そういうふうにしていくと、まさにそれが理想的だと思います。私の言葉足らずのところも補っていただきましてありがとうございました。そういう形で進めていただいたらというふうに思います。

さて、今、二元代表制なんだからという意味で、市長が提案したものを議会でしっかり審査して、予算を決定して行って、そして執行していくというのが、今のいい決め方だろうというふうな御意見だったと思います。確かにそのとおりだと私も思います。

その中で、一体、議員、議会って何のために置かれているのかということが、あまり市民のほうに伝え切れていない、私たち議会、議員の足りないところがあるんじゃないかなというふうに思っています。今から言うことも、それは理想だよと言われるかもしれませんが、私が思う市民協働を進めていく上での議会の役割というものについて話させていただきます。

それは、市民の人数が増えて、直接話し合っ物事を決めていくことが難しいので、自分の代わりとなる者をあらかじめ選び、その者に意思決定のプロセスを代理させることで意思決定の場に自分の意見、市民の意見を反映することができる、これが間接民主主義だと思います。実際に数年に一度の選挙で選ぶ議員が、それぞれの政策決定において常に自分の意見と等しい行動を取るかという、必ずしもそうでもありません。それは議員は代理人ではなくて代表者であるということからも言えると思います。代理人は弁護士とを考えていただいたらいいかと思うのですが、依頼者から言われたことをやる、必ず依頼者にどうしたらいいかというのを確認を取ってやらなきゃいけません。議員は確かに市民から負託を受けていますが、多くの人の意見を聞いて、いろいろ違う意見の中から自分が選んで決定するということ、そこは違いがあるので、市民からしたら、私はあんなふうに言ったのに違う行動を取った、私はあの人に入れたのにということになる場合もあるかもしれません。

最近、私は少し別の見方をしています。これは福岡市の財政担当だった人がブログに書いていたことなのですが、議員は有権者のアバターだと思います。アバターというのは、ちょっと難しいかもしれませんが、自分がゲームをしている中で、そのゲームの中で動いてくれるものです。結局、自分の分身みたいなものだというふうに思っています。その中に自分の思いを投影して、その分身となるキャラクターの活動は自分でコントロールすることもできますが、放置しておくと、アバターそのものの設定に基づいて、その仮想世界で勝手に営みを進めてくれる。そういうものがアバターです。

したがって、市民は議員を通じて行政に自分の思いを伝える、そのための一つの分身だというふうに私は議員を捉えています。したがって、議員がどれだけ議論や、その前段階の対話をしているか、それを有権者がどれだけ知っているか、その密度と解像度が濃ければ濃いほど、自ら対

話の場に足を運ぶことができない市民にとって対話の疑似体験ができると思うのです。議会は議論の場、物事を最終的に決定する場ですが、その場に居合わせることができない多くの有権者にとっては、議員が議論をしていることが、あたかも自分が議論しているかのように感じられる。自分の分身の役割を果たしてくれれば、議論の前の対話の段階から、雑談や愚痴の段階から、議員の活動を自分の分身として認めることができ、その議員を通じて自分の意見が反映される。これが議員の役割だと思うのです。今、議員の役割だと思うんですと言ったのですが、これは実は行政の職員にも当てはまるんじゃないかと思うのです。御用聞きから始めること、全て要求を聞いてくださいということを行っているのではなくて、市民の要望、御意見をもう少し市役所の職員が現場に出て、話を聞きに行く。そういう時間的余裕をつくっていく必要があるのではないかというふうに思っています。そのためにも優先順位をつけて、何が大事な仕事なのか、そうでないもの、やらなくていいもの、しっかりと決めて、判断して、スクラップアンドビルドという言葉がありますけれども、何か新しいことをやろうと思うと、人間も費用も時間も限られているわけですから、何かを捨てないと新しいことはできないと思うのです。

市長、今の考えで、今後、チェックというところを十分やっていかなければいけないと思います。そのためには、庁舎内だけのチェックでは、どうしても甘くなると思うんです。これから今まで以上に第三者からのチェックを入れる、もちろん議会もチェックしますが、そういう機会をつくるということについて、市長はどのように考えていらっしゃるか、御意見を聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、先ほど議会議員の在り方というところの分につきましては、あくまで協本議員の考え方ということで、私のほうからは私の考え方というのは差し控えさせていただきます。その中で、職員の関係が、御用聞きという言葉がふさわしいかどうか、私はそこは分かりませんが、各地域からの要望、陳情が来た場合に、机の上で判断をするだけではなくて、例えば、公共事業、土木事業等につきましては、各担当部局が現場のほうに向いて、現場の状況等もチェック、確認をしながら、優先順位をつけていくといったことで、今現在、進めているところであります。決して、これが先ほど申しましたように、私のトップダウンとか、担当者の考え方のみでやっているわけではないということについては、御理解をお願いしたいというふうに思っておりますし、先ほどのPDCAの中のチェックの部分につきましては、これは冒頭申しましたように、議会からのチェックももちろんございます。そして、いろいろな審査機関等に相談をかけたりのチェックもあります。そういうことで、今後もPDCAサイクルの中のチェックもしっかりとしていきながら、事業等に取り組んでまいりたいと思います。もちろん、ここの中には監査委員会、ここからもかなりチェックの目を入れてもらっており

ますし、事務手続等についても、たまにそういった指導等があっけてきているようでありま。今後もPDCAについては、特にチェックもしっかりと目を向けてやっていきたいというふう思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。それでは、今、行政職員の役割ということでお話をさせていただきました。今度は市民のほうについてなんですけれども、平成16年に対馬市が合併しました。そのときに、まだ市長はできていなかったのですが、6町の町長たち、合併委員会のほうから、合併イベントを行うということがありました。その際、あの当時の人たちは、すごく度量があられたなと思ったのが、今でも思うのですけれども、対馬市商工会青年部に予算をつけてくださって、イベントを託してくださったんです。対馬市商工会青年部と言いましたけれども、当時はまだ6支部がそれぞれの支部でした。まだ対馬市商工会青年部という形になっていませんでした。そのときに、本当に何回も何回も、当時の町の青年部が最後のほうは1週間に1回くらい、夜なべ談義もしながら、イベントの計画に膝を付け合わせてやっていたことが思い出されます。そのとき、結構雨も降って、参加者も少なく、一般の人からは、ああいうイベントに無駄遣いしてというふうに言われたことも思い出します。しかし、あのときに、ああいう毎週毎週、若い商工会青年部員が集まって、話合いを持ったことが、その後、今、対馬市商工会青年部、それから若い人たちの、対馬市になったんだ、対馬市としてまとまっていこうやという機運を醸成してくれたと思うんです。イベント自体は批判されたように大成功とは言えなかったかもしれないが、失敗と言われると、やはり一緒にやった人たちもいますし、悔しい思いはありますが、事業の成功よりも、そういう機会を設けるということが私は今こそ必要ではないかなというふうに思います。この市民協働というのを進めるに当たって、そういう若い人たちが何かやろうと思ったときに、そういう予算をつけていただく、そういうことについて市長の見解をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私自身も若い方たちが何かをやろうということで企画書等を上げていただければ、十分に吟味して行って、これが対馬市の活性化になるという判断をすれば、十分に、そこは優先的にも予算をつけていきたいというふうに思っておりますし、私の前の市長であります財部市長の時代から、わがまち元気創出支援事業等におきましても、市民の方たちが本当にやる気を持ってやろうという事業には予算を優先的につけてきている実情がございます。今後もそのようなことで、本当に市民の皆様が真剣に対馬市のために何かをやろうということであれば、私も一緒になって対馬市の発展のために力を尽くしてまいりたいというふう考えております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 力強い答弁ありがとうございます。市民のほうも、やろうと思えば、市もそういうふう支援してくれるという心強い気持ちになられたと思います。今度は市民に向けてというところもあるのですが、比田勝の豊崎神社の大祭が毎年行われていますが、今年もコロナの関係で神事を行うぐらいで、御下り等もできませんでした。

コロナ前の最後のときには、比田勝の中でも私たちの班は片づけの担当になっていました。そのときに思ったことを前にブログに書いていましたので、紹介させていただきます。はっぴや足袋や相撲の土俵に巻かれた紅白布等を大勢の女性が毎年当番で、順繰りで洗濯しています。高齢化も進み、本当に大変な負担です。最近、近くにコインランドリーができたから、そこで洗濯するようにしたらどうねという声も上がりました。皆さんの負担を軽減してあげたいという、本当に優しい心から生まれたすばらしい提案だと思われます。しかし、毎年、順繰りに洗濯当番で集まった際に、顔を見合わせ、協力して作業をすることで、地域の絆を育み、継承する一助になってきた一面もあるんだろうと私は感じました。

豊崎神社の秋の大祭の準備に参加した折には、しめ縄づくりを今年は担当しました。少子高齢化が進む中、このような機会が大変貴重で、作業中に、昔、この地区で起こった水害のことや、古くからの言い伝えなど、興味深いお話をお年寄りからたくさん聞かせていただきました。

御存じのように、対馬の盆踊りが国の重要無形文化財に指定されました。古くからの踊りが今も残っているという現時点での価値もさることながら、毎年毎年、稽古を何日も重ねることで、対馬各地の盆踊りがそれぞれの地域で、今もなお地域の絆や郷土愛を育み続けている象徴として高い評価を受けたのではないかと、私は感じています。

少し話が横道にそれましたが、必ずしも会議を開催したり、アンケートを取らずとも、ある程度、関係者のニーズを把握することは、こういう行事があればできると思うのです。例えば、このような行事を通じてなど、多くの方から意見を寄せていただくような議員、かみしも脱いで市民に寄り添う、そういう議会、市長、市の職員、そういうのを目指していったらいいのではないかなというふうに、そのときに感じました。今のことについて、市長、何か御意見があればお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私もよく聞いていたのですけれども、意味が、どういうことをお聞きになりたいのか理解ができませんでした。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） すみません、私の説明が悪くて。

今、効率を第一に考えてやるのが社会の趨勢になってきているのですけれども、効率よりも

っと大事なもの、あえて言えば非効率なことを受け入れることで人々の絆が生まれてくる。田舎に住んでいて、いろんな地区のことに駆り出されることがあると思うのですが、都会に住んでいたらそういうことはないですよ。けど、そこに行くことで、地域のことが把握できるじゃないですか。あそこのばあちゃんは今年来なかったね、何か骨折したらしいよとか、そういうことで、また市のほうの職員としても、災害のときに、あそこにああいう人がいたなということで早く助けに行けるとか。AIの時代が進んでも、なかなかデータでも取れないところ、そういうところが直接会うことによってできるということが私が言いたかったことなんです。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） やっと少し理解することができました。そういう意味で、議員がおっしゃりたいのが、要は地域との触れ合い、そしてまた関係を濃くしていくことが重要ではないかというようなことをおっしゃりたいのだろうと私自身把握いたしました。

そういう意味からいたしますと、今、対馬市としましても地域マネージャー制度を取り入れてきて、これで地域の方々とは深く結びついているのではないかなというふうに私自身は感じておりますし、もう少し地域マネージャー制度についても充実を図っていくことは求められるものと思っております。改善することも必要だというふうに思っております。そういうことで、市といたしましても、あくまで市民の中の一人として、先ほどの議員の言葉じゃありませんが、御用聞きを兼ねて市民の中に入ってまいりたいというふうに思います。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本尚喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。今、地域マネージャー制度の評価、自己評価があつたのですけれども、やはり評価はいろんな人がいろんなレベルでされると思います。私としては、こういうことこそ第三者の評価が大事なんじゃないかなと、今の答弁を聞いて思いました。確かに一生懸命やってくさっている地域マネージャーもいらっしゃいます。温度差があるのは、もちろん市長も分かっていると思います。どちらかというと、あまり活動していないところの市民のほうから、何もやっていないというような意見が出て、なかなか一生懸命やっていることを評価してくれない、これが市民の常ではないかなというふうに思っております。でも、そういう人たちにも理解してもらい、そういうふうに努めていくことが行政であり、議員の仕事ではないかなというふうに思います。自分がやっていること、それを理解してもらうために、しっかり情報発信もしていかなければいけないだろうというふうに思います。

今、地域に出て、しっかり地域の声を聞くことが大事だということでは市長と認識が一致したと思います。それを、この予算編成に生かしていただきたい、そういう思いから全部とは言いません、例えば上の振興部だったら2億、中だったら2億、それから南部のほうにも振興部はあり

ませんけれども、特別に3億とか4億、そのくらい、年間の予算の2%ぐらいです。それで自由に予算が、市民が考える機会をつくる、失敗するのは本当は税金でもったいたくないですけれども、それも覚悟の上でやる。それは10年後、20年後、こういう市民協働が進んでいくための必要経費だと、そういうつもりで取り組んでいただきたいと思います。市長、今の必要経費だという考えについて、どういうふうに思われますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 必要経費と申されますけれども、これは対馬市の固定資産税等の税源も30億でございます。まして、そういった部分で、補助事業等をそういうふうに各枠配分等のほうに回すということであれば、会計検査等とか、いろんなしがらみも出てまいります。そういうことで、もし回せたとしても、単独の経費ぐらいではないと回すことは難しいのかなと、私自身、今、思っておりますし、これはまだまだ検討・研究を重ねないと、具体的なことは発言できないということで御勘弁願いたいと思います。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 結構です。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時10分からとします。

午前10時52分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 皆さん、改めまして、おはようございます。新政会の春田新一でございます。

さて、コロナ禍で県内外への移動が制限をされておりましたが、ここに来て、久しぶりに移動ができるようになり、観光客も徐々にではありますが増えて明るい兆しが見えてまいりました。本市では、森林が島の面積の89%を占める自然豊かなで人情あふれる島だというふうによく言われております。しかし、現在では、自然は相変わらずよくない方向に変わり続けているような気がいたします。海面は海水温の上昇、動植物の変化も敏感になっているようにあります。漁業は獲れる魚の種類や漁獲高も減少している。また、磯焼けで藻場が減少し、ウニや貝類も漁獲量が減って、水産業に携わる方々の生活は厳しい状況であるというふうには推測をいたします。

島にとって持続可能とは何を意味するのでしょうか。比田勝市長も2期目の4年間、5つの拡大戦略を掲げられて、力強い市政運営に取り組んでおられます。2期目の道半ばではありますが、